

◆ 平成 26 年度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：NPO 法人 食品リサイクル農園あさか

代表者：代表 野口久美子

URL :

1. 活動が必要とされた状況

現状、一般家庭排出の生ゴミは殆どが焼却ゴミとして処理されている。生ゴミは堆肥化し資源として活用することで、環境負荷の軽減、豊かな土壌・緑の保全等、環境保全効果大である。生ゴミは、一般家庭排出ゴミの約 40% を占め行政の廃棄物処理費用減少に効果大である。又、生ゴミの資源化は市民が直接すぐに取り組める。まず自ら実践実証し全市民が参加する循環型社会構築が急がれる状況である。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

会員が生ごみ等を拠点の畑へ持寄り、生ごみ・落葉等で堆肥を作り、その堆肥を使い、共同作業で、無農薬、有機野菜を作っています。自ら生ゴミ減量、資源化、豊かな土壌、美味しく安全な野菜作りをし、小さな循環型社会構築を実践しています。啓発活動として、地域住民・学童対象に畑で体験学習、室内で講演会、展示を実施。他団体との交流を深め、活動の理解・普及、協力者の増加を図り、行政との協働を進め、活動の拡大を図ってまいります。

内容	実施期間	参加人	活動実績
生ごみ持寄り	通年	13 名／月×12 月	2 t
落葉等・(堆肥実績)	11 月～1 月	参加部署 7	3 t (2t)
有機野菜作り	毎水・土曜	延 400 人／年	
なかよし体験講座	毎月・金曜	延 500 人／年	
ジャガ芋・サツマ芋 ピーナツ体験講座他 花祭りうどん店	3 月～11 月 4 月	延 110 人 延 30 人／2 日	600 杯
都市農地を考える シンポジウム	2 月	25 人	



3. 活動の成果

生ごみ・落葉等計 5 t の焼却ごみ減量に寄与しました。又、じゃが芋・さつま芋・ピーナツの体験講座を実施、会員、ボランティア予備軍を見込む事ができました。又、2 月に昨年に引き続きシンポジウム「都市農地を考える」を開催 PR できました他花祭りうどん店の出店もでき、福祉 NPO の体験講座も年間通して実施でき、資金自立の基盤も確立されつつあります。他団体、行政との連携も少しずつ進んでおり更に拡大推進していきたいと思ひます。



4. 今後に残された課題

会員数 18 名と変動ないが、畑作業実働会員が少ない事。資金自立の為に会員増が課題です。体験講座を強化するとともに、広報、PR 強化に取り組んでまいります。